

クラウド型脆弱性管理サービス



# FutureVuls

---

**現場の状況(お客様の声)と  
FutureVulsで解決できる事**

# 脆弱性管理システムはなぜ必要？

近年、脆弱性の急増・IT環境の複雑化によって、セキュリティリスクがますます高まる中、  
「万が一」による損害を防ぐことが重要です

## 脆弱性の急激な増加



## IT環境の複雑化



## セキュリティ事故のリスクがより身近に

顧客情報・  
社内情報の漏洩

サービスの停止

金銭的な損害

復旧作業への  
膨大なリソース投入

会社の信用低下

自社を脅威から守るために **継続的な脆弱性の管理** が必要です

課題		現場の状況（お客様の声）		FutureVulsで解決できる事		Futureがご支援できる事
1.	資産の現状把握とラベリングが困難	・資産情報の不備、分散によりしっかり管理できていない ・重要度評価の欠如、ビジネス上の重要度評価が難しい		◎	資産情報の一元管理と、重要性含めたハンドリングが可能になります。	脆弱性管理サービス FutureVulsを ご紹介いたします
2.	脆弱性評価(トリアージ)と影響判断の複雑さ	・リスク評価に関する専門性が不足 ・情報過多で優先順位付けも不十分 ・影響範囲調査の負荷が高い		◎	脅威レベルとお客様における資産の重要性を加味したフレームワークを用い、専門家が不在でも自動的に最適な判断が可能です。	
3.	人的リソースと専門知識の不足	・慢性的リソース不足に悩んでいる ・高度な専門性が要求されている ・セキュリティ人材育成が困難で、属人化している		◎	セキュリティ運用者の視点で開発されたツールの利用により、管理レベルの向上 & 均一化と、管理作業の効率化も図れます。	
4.	脆弱性情報の配信とコミュニケーション課題	・セキュリティは粒度・レベル等を考慮した情報伝達が難しい ・日々情報を集め配信する業務が負荷になっている ・受信側の対応力不足もあり、結局完遂されていない ・こうしたコミュニケーションが形骸化してしまっている		◎	資産情報と脆弱性情報の収集、突合、トリアージ、チケット管理まで対応可能です。慣れ親しんだコミュニケーションツールとの連携も可能です。	
5.	運用体制・プロセスの未整備	・手動作業が多く非効率な対応が多い ・標準化が後回し、あるいは標準化の意識が欠如している ・部門間連携も不足し、責任の所在があいまい ・進捗管理が表面的で、実効性に課題がある		○	運用の効率化により、部門間連携の障壁を下げる事にお役立ていただけます。また業務や組織毎あるいは横断的管理が可能なグルーピング機能で、状況に合わせた利用が可能です。	<a href="#">弊社セキュリティコンサルタントにご相談ください</a> 
6.	ツールとテクノロジーに関する課題	・システムに対するツール運用のリスクと負荷が心配 ・脆弱性情報の形式がバラバラで、人間が間を埋めている ・過剰検知で疲弊している ・ツール自体のコストが負担である		○	導入コストはかかりますが、共通化された運用を実現でき、あらゆる作業が自動化されることで対応負荷が低減されるので、工数削減に繋がります。	
7.	組織文化と経営層の理解	・経営層・管理職の理解不足で投資がなされない ・部門間の協力不足と意識の低さ、優先度が低い ・正しく評価されず、モチベーションが低下、人材流出へ		△	セキュリティの脅威と影響、および回避の重要性を経営事項として捉えて頂くための、判断材料となる対応状況を可視化できます。	
8.	パッチ適用・修正対応への障壁	・諸々の制約や影響が懸念されパッチ自体適用困難 ・(パッチではなく)代替策に依存せざるを得ない ・パッチ適応コストと関連調整が困難		△	脆弱性への対応に関するスケジューリングやタスク割当などを含むチケット管理、対応に必要なパッチコマンドの表示支援まで可能です。	

## FutureVulsについて更に詳しく知りたい方

資料請求フォーム

## ご不明点はお気軽にお問い合わせください

脆弱性管理を知り尽くしたエキスパートが御社のお悩みをヒアリング  
他社事例もご紹介しながら最適なプランをご提案します

お問合せフォーム

フューチャー株式会社  
東京都品川区大崎 1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー